

令和2年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	20	学校名	静岡県立沼津城北高等学校	校長名	高橋 和秀
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア 進路希望の実現	職業観と進路意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の職業を見通した文理選択 ・2年次10月までの進路希望学校名決定50%以上、大学・短大希望者は学部学科決定70%以上 ・進路研究を生かした各自の目的意識に合った進路決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・科目選択説明会と面接を適切な時期に設定し、文理選択をさせることができた。 ・全学年で、総合的な学習の時間を計画的に実施した。 ・小論文や志願理由書指導を繰り返し、表現力を養えた。 ・2年生の80%以上が進路希望の分野を決定している。 ・全学年で、総学やキャリア教育を通して、進路希望実現に向けて力を付けた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・現2年生の文転者が多いので、1年次から適切な選択を促したい。 ・様々な方向から研修を行い、職業観を養った。情報量が多いため、更に意義のある進路研究としたい。 ・各種調査等を利用して意識の高揚に努めた。進路希望の多様化への対応が課題である。 ・コロナのため、キャリア教育が例年通りに実施できない部分があった。
	総合的受験力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・外部模試の成績向上（中間層の向上） ・小論文、面接の対応能力向上 ・進学講習参加者増加と満足度向上 ・進路希望実現者の増加（3年1学期までの進路目標定着80%以上） 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部模試の成績は、二極分化の傾向があり、学年や教科によってばらつきがあるものの、上位層や中間層が少しずつ伸びている。 ・小論文と面接指導が十分に行われ、対応能力が向上した。 ・進学講習を計画的に実施することができた。満足度は79%であった。 ・3年生の1学期までの進路目標決定者は8割程度で、目標を達成した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年・各教科で、外部模試を通して、生徒個々の成績の分析力を更に深める必要がある。 ・小論文指導と面接指導は、今後も計画的に、手厚く実施していく。 ・各学年、進学講習への参加人数が少ないため、基礎学力向上のためにも参加人数を増やす工夫が必要である。
	新入試への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・新テストに対応した進路指導の展開 ・英語4技能7段階のグレードCAN-DO statementsの確認と具体的な目標設定 ・GTECの技能Grade向上や英語検定合格者の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した大学入学共通テストの実施やGTECに関して指導を行い、入試への意欲喚起につながった。 ・1、2年生全員に、新テスト対策として、GTEC4技能検定を実施した。2年生で、グレードA2以上の者が大幅に増えた。 ・CAN-DOリストに基づき、全学年でパフォーマンステストを実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テストに向けた情報収集と対策をより具体的にやっていく必要がある。 ・文科省の動きが見えず、指導しづらい面があった。 ・英語運用能力の必要性を生徒に周知するきっかけとなった。

イ 確かな学力の定着	新学習指導要領への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・校外内の研修への教員の積極的な参加 ・新教育課程（案）の作成 ・教科別研修会の実施 ・新学習指導要領の理解の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係各所で十分に検討し、本校の目標と生徒の実態に即した新教育課程を作成することができた。 ・全職員が校内研修に積極的に参加し、活発な議論を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試の概要が分かり次第、新教育課程を適切に正式決定していきたい。 ・学校設定科目の中で新たに設置するものについて、より詳細な学習計画を立てる。 ・観点別評価について、科目単位でルーブリックを作成していきたい。
	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間と学習理解度の増加 ・教科単位で観点別評価の基準表を作成 ・「学びの基礎診断」のPDCAサイクルに基づいた活用促進と指導への反映 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で週末課題を計画的に出し、各学年で定期的な家庭学習時間調査を実施した。また、生徒による授業評価アンケートを実施する教員も増えた。様々な工夫を重ねたが、家庭学習の時間数は伸び悩んだ。一方、学習理解度については若干向上した。 ・観点別評価に関するアンケートを行って現状を把握し、課題を確認することができた。観点別評価の規準表作成が進んでいる教科もある。2月には全教科のシラバスについて観点別評価を整備し、研修会も実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な学習時間調査を継続するとともに、家庭学習時間と学習理解度を増加させる指導法を引き続き考えていく必要がある。 ・新教育課程の実施までにしつかりとスケジュールリングし、観点別評価の評価規準を決定したい。 ・引き続き、「学びの基礎診断」のPDCAサイクルに基づいた指導を進め、基礎学力の定着を図る。
	読解力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科での読解力を意識した授業展開 ・聞く・書く・話す等まとめる力の向上 ・朝読書の充実と読書量の増加 ・新聞を活用した指導による読解力向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の授業等で、新聞記事の活用、音読や要約、自分の考えを伝える場の設定等、読解力育成のための取り組みを行った。 ・朝読書を11月に5日間実施した。 ・コアスクール事業又は進路課の事業として、県内在住の外部講師を招いて、又はリモート形式で、読解力や表現力の養成講座を行った。 ・新聞は、特に小論文・面接指導と連動して効果があった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で、読解力養成のための取組みを継続的に行う。定着を図るため、引き続き内容や方法等の改善を進めたい。 ・読書指導の位置づけなど、全体を見通した指導方針が必要である。 ・外部の方から刺激を受け、読解力養成へのきっかけづくりの場となった。 ・新聞は能動的な進路希望決定と実現のために、今後もクラスへの配架が望ましい。

様式第3号

ウ 人間力の育成	生徒会活動や学校行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動や学校行事の運営に主体的に携わる生徒 30%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動において多く（30%超）の生徒が積極的に取り組んだ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は、更なる自発的活動に期待したい。
	学習活動と部活動との両立	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画作成と周知、活動目標の達成 ・満足度 80%以上と県大会出場者 60人 ・各学期の欠点保有者が 2%未満 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの大会が中止となったが、制限のある中、活動は活発であった。 ・年間並びに月間計画、活動目標を全部活動が作成し、活動した。 ・部活動の満足度は、コロナ禍にも関わらず 78.7%、欠点保有率は、1学期 2.3%、2学期 3.8%であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・レベルの高い目標を各部が定め大会成績を収めてほしい。 ・満足度の向上と家庭学習との両立が達成できるよう、より効果的な活動計画の作成を推進していきたい。
	規則正しい生活習慣とマナーの確立	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の生徒らしい身なりや行動の実践 ・全校生徒の自発的挨拶と対応力向上 ・服装頭髪検査時の違反 0人を半分以上 ・進路実現に向けたマナー等の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・大半の生徒は挨拶ができ、服装頭髪の乱れもなく、学校全体に落ち着きが見られた。 ・服装頭髪検査の違反者は極めて少なく、ほぼ 0の状態であった。 ・推薦指導希望者や進路決定者に対してその都度、挨拶礼儀指導を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶だけではなく、規範意識とマナーの向上を目指す。 ・服装頭髪検査などで、今後も引き続き指導していく。 ・日常での指導を積み重ね、進路実現に向けたマナーを確立させたい。
	人権意識の涵養	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の人権意識や人権感覚の涵養 ・配慮が必要な生徒への適切な対応 ・生徒間の対人トラブルへの適切な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、担任、スクールカウンセラーと協力し、配慮が必要な生徒への対応を行った。 ・クラス内におけるいじめが 1件発生した。適切な指導が行われた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮が必要な生徒は数名いたが、大きな問題もなく日常生活を送れた。 ・他者を思いやることを継続的に育てる。
エ 安全・安心な	防災体制と防災教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災訓練の参加者 70%以上、不参加者の追指導と合わせて 100%の参加 ・安否確認訓練において 1回で応答する生徒 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響により地域防災訓練への参加率は 9.9%であった。不参加生徒全員への指導を Google classroom を使って行った ・安否確認訓練では、第 1回・第 2回とも 90%を超える応答率であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を、より実際に近づけた形で行う工夫の余地がある。 ・地域防災訓練への参加率を向上させる。

様式第3号

学習環境の整備	<p>SNSの不適切利用の防止 自転車事故の防止と</p>	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故発生件数10件以内 SNSの不適切利用者指導が10人以内 	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故発生件数は7件。 県教委によるネットパトロール摘発件数は1件。 SNSによるトラブル生徒指導事案はなかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 交通ルールとマナーの徹底を継続的に行う。違反者に対する個別指導や、事故事案の情報提供を行う。
	<p>治療率の向上と感染症の予防</p>	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断での心電図、貧血、尿検査の有所見者は100%受診(検査、治療) 歯科・視力の受診率60%以上 生徒、保護者の健康に関する意識向上 	<p>心電図・貧血は100%だが、尿50%、歯科40%、視力41%で、全体では目標には届かなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染症予防は職員・生徒とともに最大限取り組むことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 治療率向上に向けて継続的に指導したい。 感染症予防はタイミングを捉えた指導が効果的である。
	<p>教育相談体制の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全生徒の性格診断検査実施と結果の有効活用 困り感のある生徒や問題を抱えた生徒への支援体制の確立と連携の充実 気軽に相談できる環境の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ストレスチェックと性格診断テストを実施。同時にスクールカウンセラーとの面談等を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーとの面談者は月に3人程度いたが、ほとんどの生徒は日常生活を送れている。
オ 地域との連携	<p>高校再編計画への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> 県教委担当部署の説明会等を通じた連携と再編整備についての理解 	<ul style="list-style-type: none"> 6月及び2月に県教委の担当者からスケジュール等の説明を受けた。9月に外郭団体を対象に説明会を開いた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新構想高校計画について理解を深め、地域に対し正確な情報を発信するとともに、情報収集を進める。
	<p>地域への貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> 環境美化活動等への積極的参加による地域貢献 ボランティア活動や地域行事への参加による生徒の社会性や参画意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 11月のクリーン作戦の参加者は165名であった。 コロナ禍のため、ボランティア活動件数は少数であったが、3年生に積極的な参加が見られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> クリーン作戦参加者は一生懸命に清掃活動を行ったが、今後規模を拡大していきたい。 自発的な参加により、ボランティア精神を養う。

	広報活動による情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新回数増加と充実 ・学校説明会、一日体験入学参加者の理解度や満足度の向上 ・近隣中学校への積極的訪問と情報発信 ・志願者数の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・一日体験入学を2部構成で実施し、授業参観、学校説明、部活見学を取り込めた。 ・ホームページ更新回数が大幅に増加した。 ・中学校説明会を16校で実施し、オープンスクール等もやり方を工夫して参加者が増加した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一日体験入学実施後のアンケートはおおむね良好であった。職員減を考慮した計画をしたい。 ・ホームページの閲覧者情報を入手し、閲覧者の視点に立ったホームページ作成に取り組みたい。 ・学校説明会やオープンスクールの内容や宣伝方法を更に改善する。
カ 頼 も し い 教 職 員	教職員研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回の校内研修の充実と授業改善 ・校内における教職員同士の学び合いによる研修の充実と同僚性の向上 ・AL型授業の深化と観点別評価の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・AL型授業及び観点別評価について、実践的な研修を年3回行うことができた。 ・AL型の学びに関するガイドブックを更新した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・AL型授業に加え、新学習指導要領に対応した観点別評価の方法についても更なる研修を進めていく。 ・ICT機器を活用した研修も企画していきたい。
	ワーク・ライフバランスの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員による業務効率化実施 100% ・時間外業務時間の対前年比 10%減少 ・活動目標、年間指導計画の全部活動作成と効率的な部活動の展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・Google classroomの導入、各課業務のマニュアル化、行事の見直し、研修の効率化等、できることから実施した。 ・時間外業務の総時間数は、前年度比 3%減少に止まった。 ・定時の食事と十分な睡眠が取れている割合が前年度より大幅に増加した。 ・年度当初に全部活動が、活動目標と年間指導計画を作成した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・更なる効率化と業務改善を進めたい。 ・業務の効率化と平準化を更に進め、時間外業務の総時間数の前年度比 10%減少を達成したい。 ・臨時休業措置もあったが、ガイドラインに沿った部活動運営を遵守していきたい。
	コンプライアンスの徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全意識の高揚 ・飲酒、酒気帯び運転ゼロ ・体罰、パワハラ、セクハラゼロ ・監査、検査等の指摘事項ゼロ 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス研修を毎月、自己点検表を年3回実施した。軽微な交通事故が2件発生したが、その他はなし。 ・監査、検査等の指摘事項0件だった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに声を掛け合い、今後も気を緩めず、コンプライアンス意識の徹底を図る。 ・引き続き適正な会計処理に努め、ケアレスミスを減らしていきたい。